

令和6年9月25日

第3学年保護者 様

加古川市立平岡中学校
校長 松浦 幹雄

令和6年度全国学力・学習状況調査結果の返却について

秋晴の候、保護者の皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

平素は本校教育活動に深いご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。

さて、4月18日に実施しました全国学力・学習状況調査(生徒質問用紙・国語・数学)の結果が返送されてまいりました。本日、お子様の調査結果(個人票)を返却しましたのでお知らせします。

なお、調査結果(個人票)に示されているのは、学力の特定の一部分ではありますが、これまでの学習等の成果や取組状況について、お子様とともに改めて確認する機会にしていいただければと思います。

また、学校におきましても本調査結果を十分に検討し、子どもたちの学力をさらに伸ばしていくための今後の手立てとして活用してまいりたいと考えております。

以下、本年度の本校の調査結果を考察しましたので、その結果についてお知らせいたします。

【国語】

全体の正答率は全国平均と比べて若干高い。「言葉の特徴や使い方に関する事項」などの「知識及び技能」の観点が高い傾向にあった。それに対して「思考力・判断力・表現力等」における「読むこと」の正答率は、全国平均を上回っているものの他の観点に比べると正答率が低い。中でも、文章と図を結び付ける問題や要約する問題は特に低かった。

授業や課題を活用し、ただ文章を読んで解答するだけでなく、図との関連性を考えたり、読んだ内容を要約したりする機会を作ることで力を養わせたい。さらに、問題形式別に見ると、選択式や短答式が全国平均を上回っているが、記述式になると全国平均以下の正答率になっている。知っている知識を当てはめたり、単語で答えたりするだけでなく、自分の考えを文章に表現する機会を充実させることで、力をつけさせたいと考える。

【数学】

「数と式」「関数」「データの活用」の問に関する正答率は、すべてにおいて県・全国平均を上回っている。中でも文字式や関数の正答率が高く、文字を利用することに苦手意識なく取り組んでいるといえる。一方で「図形」の間では、3問中2問が県・全国平均を下回っており、この2問に関しては他の間に比べて無回答率も高い。このことから、証明のような筋道をたてて論述的に進めていく問題を、解決する力が不足していると感じる。また、観点別にみると「知識・技能」が県・全国平均を大きく上回っており、計算をはじめとする基礎的技能は定着しているといえる。しかし「思考・判断・表現」の正答率は少し落ちることから、これらの基礎的技能が数学的思考を用いて問題解決を図ることに結びついていない点が課題にあげられる。すべての単元を関連付けて学習するとともに、順序立ててアプローチさせることで、数学的思考力・表現力を高めたいと考える。

【生徒質問紙】

「朝食を毎日食べる」「毎日同じくらいの時刻に寝る・起きる」の項目全てにおいて、兵庫県・全国平均より高い結果が出ている。これは本校の、家庭での基本的な生活習慣が定着していると考えられる。

ICT機器の使用についての項目は、使用目的がSNSや動画視聴、ゲームである場合、勉強である場合ともに、兵庫県・全国平均と比べて低めであった。しかし「携帯電話・スマートフォン・コンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか」の質問に「きちんと守っている・だいたい守っている」と答えた割合が兵庫県・全国平均より高かったが、「携帯電話・スマートフォンやコンピュータは持っているが、約束はない」と答えた割合が兵庫県・全国平均と比べて若干高くなっている。SNS等のトラブルが年々増加傾向である現状を踏まえ、再度家庭で携帯電話の使い方について考えていく必要がある。

「自分には、よいところがあると思いますか」「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思いますか」「人が困っているときは、進んで助けていますか」「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」「学校に行くのは楽しいと思いますか」などの項目について、「当てはまる」と答えた割合が、兵庫県・全国平均よりかなり高い結果であった。他者との関わりに関する項目においても満足度が高い結果を見ると、人との関りの中で自他共に認め他者を思いやる心を養い、自己肯定感を高めた生徒が本校では多いと考えられる。

以上の全国学力・学習状況調査結果を踏まえ、子どもたちの学力をさらに伸ばしていくための今後の手立てを講じてまいりたいと考えております。今後とも、本校教育にご支援いただきますようお願い申し上げます。